

令和5年度事業報告

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行したことから、社会全体としてポストコロナ（ウィズコロナ）による活動再開と正常化の動きが広がりを見せている。

3年にわたるコロナ禍の間に社会全体のデジタル化が進展するなど、社会経済環境も大きく変化している。こうした動きを捉えるとともに、海洋プラスチックやマイクロプラスチックの問題への関心が高まっており、企業や学校におけるSDGsの取組みが広がっていることなどを背景として、他団体や企業、学校、マスメディア等との連携を積極的に進めてきた。

また、昨年度、運営基盤の強化を目的として検討してきた法人移行については断念したことから、会員拡大や支援獲得並びに収支改善、広報の強化など当面取り組むべき課題を洗い出し、できるところから実行していくこととしており、会長個人に責任が集中する現状の運営体制を改め、会長を補佐し集団的に責任を分担して運営にあたる「役員会」を設置した。

将来を担う世代の育成《教育・啓発》

1 身近な川や水辺の健康診断

(1) 実施状況

①実施検討会

4月18日に開催し（Webでの参加可能）、実施体制や調査マニュアル等を決定。

参集者：地域部会、大学、地域で環境保全活動に携わっている方々、国・県の行政機関

②調査期間

例年のように、世界環境デーに合わせ6月3日～11日を原則として調査期間を設けるが、新型コロナウイルス感染症や天候不順などの状況に対応して、10月20日までとし、安全に実施できるよう期間を延長した。

参加申し込みは、原則の調査期間にあわせて5月19日までと設けるが、調査期間に合わせ、期間中随時申し込みを受け付けた。

③主な調査内容

- ・透視度計（1m）による透視度調査
- ・パケットテスト（簡易水質検査器材）による水質調査
6項目：pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン
- ・水辺環境（ゴミや川の中や水辺の生きもののすみ場の様子など）の簡易目視調査
- ・水生生物調査：山形県環境科学研究センターと連携し、希望グループについては身近な川や水辺の健康診断との同時申し込み可能。

④参加申込み 71団体・776名・206箇所（前年度：87団体、1,279名、256箇所）

⑤調査実施結果 70団体・756名・186箇所

新規での参加があったものの、特に大人数で参加していた学校関係の実施がなかったため、実施団体、人数、箇所とも減少した。

※（ ）内の数値は、令和4年度状況

| | 置賜地区 | 村山地区 | 最上地区 | 庄内地区 | 計 |
|-------|--------------|--------------|-------------|-------------|----------------|
| 実施団体数 | 14 (17) | 34 (37) | 9 (11) | 13 (15) | 70 (80) |
| 調査箇所数 | 49 (61) | 83 (100) | 15 (41) | 39 (50) | 186 (252) |
| 参加人数 | 219 (338) | 380 (440) | 69 (279) | 88 (204) | 756 (1,261) |

(2) 事業に対する支援

①パケットと比色カード (COD 以外の 5 項目)

国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、酒田河川国道事務所、新庄河川事務所

②公定法調査協力

公益社団法人山形県水質保全協会、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社テトラス、東北環境開発株式会社、株式会社東北サイエンス、株式会社理研分析センター

(3) 参加者への現地調査サポートについて

参加団体からの要請に応え、清流環境対策部会部会長・副部会長・事務局始め、会員専門機関や地域部会長、地域部会の活動団体等の協力により、学校を中心に、21 団体に事前指導や現地等にて水質調査指導や調査全般のサポートを実施した。山形県環境科学研究センター主催の水生生物調査と同日実施の学校では、連携してサポートを行った。

(協力会員等) 公益社団法人山形県水質保全協会、心のふるさと新井田川の会

(4) 調査結果集計については、年度末に向けて例年どおり公益社団法人山形県水質保全協会の協力を得て、レーダーチャート等を作成し、ホームページ上の報告書「笑顔を写す山形の川」に掲載。

概要版として全県のデータを 1 枚の河川地図上にまとめたものを印刷し作成した。

併せて、フォーラムホームページ上に「水辺水質マップ」として掲載。

(5) CODについては、国土交通省と市民団体が連携して実施する「身近な水環境の全国一斉調査」の一環として 50 地点分の器材の提供を受け、50 地点分の調査結果を提出した。

2 スポGOMI 大会の開催

海岸漂着物問題対策の普及啓発の一環として、市町村や地域の団体等と連携して開催している。

スポGOMI 大会と啓発資材の活用やワークショップ等と組み合わせることにより、SDGs の取組み、企業のCSR活動、学校や団体、企業が行う環境ツアーとして、環境教育プログラムを提案。

(1) 実施大会 (別紙資料 1 参照)

(2) 企業や団体との連携強化

スポGOMI 大会等へのボランティア参加、運営参画を推進する。

海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、ゆらまちつく戦略会議、(株)安藤・間、三郷堰土地改良区、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡、NPO法人パートナーシップオフィス、トヨタソーシャルフェス、株式会社JTBなど

3 海岸漂着物やマイクロプラスチック問題等の啓発 (別紙資料 2、3 参照)

(1) 海岸漂着物問題普及啓発出前講座

「身近な川や水辺の健康診断」等の実施と併せ、小中学生等に対して出前講座を実施。

(2) ゴミ回収体験やパネルやゴミ標本を活用した環境教育プログラムの推進

マルシェや商業施設でのイベント等で、ゴミ削減、海岸漂着物問題啓発ワークショップ、説明を行う。企業のイベント等でワークショップやスポGOMI 大会と併せて啓発を行う。

令和5年度は市町村開催の環境イベントでの実施、小学校の総合学習でスポGOMI 大会の実施

希望が複数あり、事前説明として海岸漂着物問題について啓発を行った。

スポGOMI大会、美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーンとの組み合わせによる環境教育プログラムを提案した。

- (3) 海と日本プロジェクト in 山形実行委員会、海と日本プロジェクトとの連携
スポGOMI甲子園、スポGOMIワールドカップ、山形の海洋ごみを考える日、モンテディオ山形等での啓発など。そのほか、SNSや動画を活用した啓発を実施。
- (4) ホームページ
参加募集中の事業について、見やすいようにホームページトップページに作成したコンテンツを活用している。活動への理解を深めてもらうため、開催の様子をSNSに掲載。

4 報告書「笑顔を写す山形の川」

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」、「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の結果報告を作成し、ホームページにデジタルブックとして掲載し、Web上で報告。
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」については、全県の結果を1枚の河川地図上に表した概要版を作成印刷し、次年度募集にあわせて実施団体や学校等へ配布。(別添)

地域の環境保全と安心づくり《課題解決》

1 美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン

- (1) 実施期間 通年募集とし実施。
- (2) 実施状況 50グループ 806名参加

※ () 内の数値は、令和4年度

| | 置賜地区 | 村山地区 | 最上地区 | 庄内地区 | 計 |
|-----------|--------------|--------------|------------|-------------|--------------|
| 参加 団体数 | 16 (15) | 20 (28) | 5 (5) | 9 (20) | 50 (68) |
| 参加人数 | 412 (219) | 265 (326) | 64 (82) | 65 (170) | 806 (797) |

- (3) データカード作成に御協力いただいたグループの活動経費の一部を支援。一律3千円
- (4) イベントとのコラボレーション
スポGOMI大会や海岸漂着物問題普及啓発事業との併催を推進。
- (5) 最上川上流におけるクリーンアップ活動の実施
山形河川国道事務所からの委託事業として、長井市、白鷹町、朝日町、寒河江市、天童市内の6か所において清掃活動を実施し、収集したゴミの数を分類、カウントしてグラフ化。
(8月29日、30日、9月26日)
- (6) クリーンアップ全国事務局や全国川ごみネットワーク主催の「全国水辺のごみ調査」に11月末までのデータを提供。全国川ごみネットワーク主催「水辺のごみ見つけ！」にも一部データ提供。
- (7) 結果報告は、Webで公開。

2 散乱ごみの発生抑制対策の推進

- (1) 商業施設等での海岸漂着物問題の普及啓発の実施 (別紙資料3参照)
マルシェ等のイベントにも積極的に出展し、海洋へのゴミの流出削減を呼びかける。
市町村の環境イベントでの啓発。
- (2) 過年度作成した動画や啓発資材を活用
- (3) 山形県海岸漂着物問題推進協議会への参画
山形県海岸漂着物対策推進協議会の構成団体として、総会等に出席し提案等を行っていく。

(6月14日、1月12日)

(5) 川ごみ団体との連携

全国川ごみネットワーク主催「第9回全国川ごみサミット」、諏訪湖畔でのエクスカージョンへの参加。

(11月18、19日長野県岡谷市にて開催(参加者約110名)

「水辺のごみ見つけ!」「クリーンアップキャンペーン」へのデータ提供。(再掲)

3 広報啓発

- (1) イベント等への出展の機会を活用し、ゴミ発生源対策や当フォーラムの活動の広報、環境保全の啓発に取り組む。
- (2) 引き続き、映画「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」を上映する会事務局として活動(白鷹町等での上映協力)。上映に併せ、海岸漂着物標本、啓発資料展示等を行う。
- (3) SNSを活用した啓発を進めるとともに、フォロワー数増加のための仕掛け等を検討する。

環境や文化を地域活性化に活かす《活用》

1 最上川夢の桜街道づくり

- (1) 全市町村及び継続団体に対し、桜の維持管理等の要望調査を行い、樹木医を派遣する。
金山町
- (2) 桜守育成のための研修会「桜守養成講座」、桜を地域資源として活かすための研修会等を地域部会と連携して開催。「緑の環境づくり推進事業(やまがた森林と緑の推進機構)」助成金を活用。
桜の植樹、手入れに関する講座、実技のほか、樹木に関する絵本等の紹介、簡単な工作等のワークショップを入れ、多世代が参加しやすく、地域に愛着を深められるような内容を紹介し、環境学習の機会も創出。
11月4日 鶴岡市ケヤキの森 講師:樹木医 砂山 隆司 氏 参加者 6名
12月3日 金山町入有屋公民館で開催 講師:樹木医 山田 寛爾 氏 参加者16名
- (3) 県内の桜の名所や地域で愛されている桜をSNSで紹介する「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」巡回展示では、桜守の活動紹介もを行い、最上川・山形の桜の魅力を広く発信。市町村の協力により11か所で開催した。
- (4) 桜守研修会「桜を巡るツアー」
7月8、9日鶴岡市で予定したが、延期。

2 桜や水辺の写真を活用した情報発信

- (1) これまでの写真コンテスト入賞作品の貸出しを希望者に対して随時行う。
9月17日「かわとびあ2023in山形」(日本一の芋煮会フェスティバル会場内)ブースで、海岸漂着物問題啓発の展示、体験とともに水辺関係の入賞作品を展示した。
- (2) 「～夢の桜街道～写真と灯りの展示会」
全市町村に展示箇所の照会を行い、令和5年3月下旬から6月にかけて市町村の協力を得て巡回。桜の維持管理事業の紹介も兼ねた展示を実施。(前述)
3月17日～3月27日 大江町中央公民館1階ロビー
3月22日～4月9日 道の駅川のみなと長井まちづくり紹介コーナー
4月5日～14日 東根市役所1階ロビー
4月10日～21日 上山市役所1階ロビー
4月11日～24日 白鷹町中央公民館町民ラウンジ

| | |
|------------|---------------------------|
| 4月17日～28日 | 川西町役場1階ロビー |
| 4月24日～28日 | 山形市役所エントランスホール |
| 4月26日～5月5日 | 朝日町エコミュージアムコアセンター創遊館ギャラリー |
| 5月1日～11日 | 尾花沢市役所市民ホール |
| 5月12日～30日 | 道の駅たかはたまほろばステーション展示コーナー |
| 5月6日～6月5日 | 道の駅いいでめざみの里観光物産館2階テーマ館 |
| 6年3月16日～ | (別添チラシ参照) |

3 湧水活用事業

「里の名水・やまがた百選」・「環境省選定」湧水を地域の環境資産として着目し、過年度に製作したプロモーション動画やポストカード等を活用する。

4 地域おこしの紙芝居作成

- (1) 海岸漂着物紙芝居(令和3年度山形県視聴覚教材コンクール入賞)の上演、貸出しの積極的な発信を行い、動画の活用を促進する。
- (2) 最上川にまつわる紙芝居「少年と最上川」全国自作視聴覚教材コンクールに出品。
- (3) 村山・置賜地域部会の連携により、2019年度からの継続した取組みとして進めてきた最上川にまつわる紙芝居を製作した(最上川229ネットワーク(白鷹町)と連携)。

地域部会

◇置賜地域部会

- (1) 村山地域部会と連携した紙芝居づくり(地域おこしの紙芝居作成(3)(4)参照)
- (2) 「スポGOMI大会」への協力
8月20日、10月1日 白鷹町
- (3) 最上川上流におけるクリーンアップ活動に参加協力
8月30日 白鷹町、長井市
- (4) 海岸漂着物啓発イベントへの協力
8月27日 白鷹町、10月7日 小国町

◇村山地域部会

- (1) 「スポGOMI大会」への協力
10月14日 山形市
- (2) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポート等の実施協力
6月9日 山形県立霞城学園高等学校、7月22日 東海大学山形高等学校、
9月28日 山形大学
- (3) 「やまがた環境展」スタッフとして協力
10月14日、15日
- (4) 置賜地域部会と連携した紙芝居づくり(地域おこしの紙芝居作成(3)(4)参照)

◇最上地域部会

- (1) 「もがみの湧水調査会」
山形県で実施している「里の名水山形百選」への応募の働きかけを行う。
- (2) 桜を守り育てる研修会開催、現地団体との連携
12月3日 金山町入有屋公民館

- (4) 「身近な川や水辺の健康診断」 補完調査
10月26日 升形川4地点

◇庄内地域部会

- (1) 「身近な川や水辺の健康診断」の現地調査サポートの実施協力
酒田市立平田小学校
- (2) 「スポGOMI大会」の開催、協力
7月8日、9月16日 鶴岡市
- (3) 「桜の育成維持管理研修会」開催、現地団体との連携
11月4日 鶴岡市ケヤキの森
- (4) 内川学関連事業の開催
3月9日 内川フォーラム開催

全 体

1 役員会の設置

最上川フォーラムの法人移行を断念したことに伴い、課題の一つであった、会長個人に責任が集中する現状の運営体制を改め、会長を補佐し集団的に責任を分担して運営にあたる「役員会」を設置。
12月7日開催の第72回運営委員会で決定し、来年度通常総会に報告する。

2 総会・運営委員会・部会

通常総会（7月24日）

運営委員会（6月13日、12月7日、3月29日）

清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会の合同開催（3月29日）

3 会員拡大の取組み

(1) 個人会員の募集

引き続き、県内金融機関並びに県、市町村の協力を得て、会員募集キャンペーンを実施する。イベントや事業実施の際に、会員募集チラシを配布し、活動への理解と広報に努める。

会員金融機関から協力をいただき、4月から7月にかけて会員募集キャンペーンを実施した。
新規加入は36会員。

(2) 法人会員の募集等

企業経営者に対する入会勧誘及び寄付募集等について、講演等の機会を活用して当フォーラムの活動を紹介するなど、役員が先頭に立って注力していく。

4 公益社団法人日本河川協会令和5年度河川功労者表彰

平成13年の設立以来長年にわたり、最上川を美しい県土づくり運動のシンボルに掲げ、川や水辺の健康診断・クリーンアップキャンペーン・スポGOMI大会など様々な活動を継続して行い、河川環境の保全や河川愛護意識の高揚に貢献したとして令和5年6月5日に表彰を受けた。

これを受けて、会長、本間最上川文化・地域経済活性化部会長が9月12日県平山副知事を表敬訪問し、受賞及び活動状況を報告し、当フォーラムへの理解を深めてもらった。

その他 委託事業・助成事業・連携事業など

1 委託事業・助成事業・連携事業など

- (1) 令和5年度 川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務委託（山形県循環型社会推進課）
委託料：3,352,000円
 - ・スポGOMI大会開催
 - ・海岸漂着物問題普及啓発出前講座の実施
 - ・商業施設等での海岸漂着物問題普及啓発の実施
- (2) 最上川上流河川清掃活動（国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所）
委託額：504,500円
 - ・最上川上流6か所での清掃活動
 - ・収集ゴミを分類し、ゴミの傾向の取りまとめ（グラフ化）
- (3) 令和5年度海岸漂着物対策事業業務委託（米沢市）
委託料：962,500円
 - ・「ちきゅうのひろば in 米沢」運営管理
- (4) 運営体制整備事業費補助金（山形県）
補助金額：4,197,930円
 - ・事務局長設置費
- (5) 緑の環境づくり推進事業（公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構）
助成額：190,000円
 - ・桜の維持管理研修会の開催
 - ・桜に関する環境学習会の開催
- (6) 水環境保全助成事業（一般社団法人全国浄化槽団体連合会）
助成額：200,000円
 - ・「身近な川や水辺の健康診断」の実施
- (7) 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
 - ・6月14日、1月12日総会出席
- (8) 全国川ごみネットワークとの連携
 - ・11月18、19日 第9回全国川ごみサミット／諏訪湖畔でのエクスカージョンへの参加
- (9) 「海と日本プロジェクト」等との連携
委託額 583,000円
テレビユー山形（株） 海ゴミマスターズ in 山形実行委員会 Change for the blue
 - ・海岸漂着物問題啓発事業
 - ・スポGOMI甲子園大会、スポGOMIワールドカップの運営など

※敬称略